今年も、「生活と健康を守る」ために頑張りましょう

2026 年になりました。

毎年、年頭に想うことは「今年こそ、良い年にしたい」ということです。

皆さんの新年は、いかがですか。小倉生健会は、微力ですが、今年も頑張ります。よろしくお願い致します。

年初の日程を紹介します。
この会報が皆さんに届く前、第 1 週には、門司区の保護課に行って、年末に保護の申請に行った人に 1 月 6 日に来なさいと追い返した件で改善を求めます。

5 日：会報の印刷。
9 日：小倉南区の班会議。
9 日：小倉生健会の理事会。
14 日：北九州生健会協議会。
16 日：北九州社保協の生活保護連絡会。
19 日：市保護課と北九州生健会懇談会。

年末に市議会に、陳情書を提出しました。

20 日：生活保護 110 番。
24 日：小倉北区班会議。
26 日：市保護課と北九州社保協懇談会。
月内：市議会での陳情審査予定？

耳より ギャンブル依存症のチェックリスト

「依存症は病気です」と聞いて、腑に落ちたことを覚えています。

依存症は、努力をしても我慢をしていても、たった 1 度でも、禁を破ると、一気に元に戻る恐ろしい病気です。

依存症には、アルコール・薬物・ギャンブル・たばこ・ネットやゲーム等々様々です。どれも深刻ですが、今回はギャンブル依存症のチェックリストを右に表示しました。

お酒は匂いがし、たばこやゲームは見ていて分かりやすいですが、ギャンブルは見つけにくいのも特徴です。

ギャンブル依存症の 8 割はパチンコ依存症やパチンコと馬・船・自転車などとの組み合わせと聞いたこともあります。

- □ギャンブルのことで仕事が手につかなくなる事がある。
- □自由なお金があると、まずギャンブルのことが頭に浮かぶ
- □ギャンブルに行けないことでイライラすることがある。
- □一文無しになるまでギャンブルをし続けることがある。
- □ギャンブルを減らそう、やめようと努力したがタメだった。
- □家族に嘘を言って、ギャンブルをやることがしばしばある。
- □総額 50 万円以上の借金をしたがギャンブルを続けている
- □支払予定の金をギャンブルに当て込んだことがある。
- □家族に泣かれたり、固く約束したことが二度以上ある。

田辺等「ギャンブル依存症」日本放送出版協会より抜粋

先日、中間市で開催された「第 17 回ギャンブル依存症講演会」に参加し、当事者や家族の方が励まし合いながら血のにじむような努力をされている話を沢山伺いました。

幸い、北九州には、GA やマック等の自助団体や行政の相談窓口もあります。是非相談を。

電話：093-522-8729（市立精神保健福祉センター）又は、区役所の高齢者・障害者相談へ

小倉生健会
生活と健康を守る
一人はみんなのために、みんなは一人のために

今年こそ、こんな悲しいことを繰り返させない年にしましょう

えっへーふーん 「おこめ券」の予算審議で 井上純子市議「私は CW の時、生活保護廃止を頑張った」

高市内閣の補正予算のわずか 2%に過ぎないおこめ券に議論が集中しています。この件についての市議会の議論をネットで聞きました。

市はおこめ券ではなく、「住民税非課税世帯に 1 万円を給付する」と提案。4 会派の議員が質問に立ちました。

唯一の市長与党を標榜している一人会派の井上純子議員は「市長のこれまでの言動と今回の対応が異なる。残念」と不満をぶつける一幕も。

そのうえで「私は市職員の時、生活保護のケースワーカー（CW）をしていたが、生活保護者には、冬は暖房代と年越し金がでる。入院・入所者はどんどん生活保護費、貯金が溜まる。私は生活保護廃止を頑張る CW だった」と自慢話を披露（廃止された方の入院・入所費用はどうなったのだろう）。生活保護者は、預貯金もあり、手当も出るので、保護者への「１万円の給付はいかがなものか」との主張に力を入れました。

聴いていて、この議員は、CW をしていたのに生活保護利用者の生活実態を全く「知らないな」、と感じました。

生活扶助費には、夏冬の燃料代は含まれていません。そのため冬場だけ 2630 円が加算されていますが、この金額では灯油を一缶程度しか買えません。不足分は、寒さを我慢するか、食費を更に削るしかありません。その上、入院時は約 5 万円、入所時は約 7 万円もの月額生活扶助費が減らされます。

納得できたのは、共産党の大石正信議員の質問です。議員は「住民税**課税**世帯も異常な物価高の中で暮らしが大変だ。**課税**世帯でも、所得が 10 万円程度の市民 5 万 3 千人には、均等割という住民税が課せられているがこの方たちにも支援をすべきだ。国の額で不足するのなら、市の貯金である臨時財政調整基金を取り崩してでも実施すべきだ」等と求めました。

北九州市 1/3 が住民税非課税世帯

テレビで、北九州市内の住民税非課税 18 万世帯に“おこめ券”の代わりに 1 万円を給付すると報道。

驚いて市に「本当に 18 万か」と尋ねたら「昨年は 15 万世帯だった。所得の未申請者もいるので 18 万世帯としたが、おそらく 15 万世帯だろう」とのこと。

それは、全世帯 43 万 8 千世帯の内 34%が住民税を払えないほどの“貧困”なのだ。市民の 1/3 が住民税も払えないほどの“貧困”は深刻だと思いませんか。

映画「ペリリュー 楽園のゲルニカ」アニメだからこそ リアルに戦争を表現

《今月の「なるほど」》

- ■前川元文部事務次官「高市内閣は『大惨事安倍内閣』」
- ■国民の命と財産を守るために軍隊があると言われていますが、多くの国で国民に銃口を向けているのが軍隊。
- ■戦争は、勝った方も負けた方も敗者。
- ■障がい者の子を持つ親「この子を残して先に死ねない」
- ■「正社員になって俺も結婚したい」
- ■日本では、年間所得 6 億円以上は 2000 人。1 億円以上が 2 万 8000 人。超富裕層への優遇はやめるべきです。

第 101 号　2026 年 1 月 10 日 小倉生活と健康を守る会（全生連　小倉生健会）　所在地:北九州市小倉北区金田 2-4-1 田中一郎方　発行責任者:八記博春　電話:090-1361-0876　ﾒｰﾙ:yatuki@syd.odn.ne.jp

是非、読んでいただけないでしょうか

素敵な文書を見つけましたので、その一部を掲載します。是非、読んでいただき、感想などを寄せていただければ嬉しいです。

いま、日本も世界も、大きな歴史の岐路にあります。この分かれ道を、希望ある方向に進めるのか、それとも暮らし・平和・民主主義を壊す逆流を許してしまうのか、それは主権者である国民のたたかいにかかっています。日本の社会の明日を決めるのは、そして歴史をつくっていくのは、一人ひとりの人間です。

高市政権で、これから日本は

自民・維新の連立で誕生した高市政権は、憲法改悪や大軍拡へ突き進もうとする、とても危険な政権です。しかし、その足元はとてももろくて弱いのではないでしょうか。自民党は国民の支持を失い、公明党の支えも失いました。自らの延命のために他党を取り込んでも、「自民党政治ノー」という国民の審判から逃れることはできません。このような自民党に協力する政党も、国民の厳しい審判を受けることは避けられないでしょう。

「二つのゆがみ」を意識して

自民党がここまで危機に陥っている根っこには、「財界・大企業中心」「アメリカいいなり」という自民党政治の「二つのゆがみ」が、国民の要求とぶつかり合い、その矛盾がいまや「臨界点」に達しているという大問題が横たわっています。

「物価高で、暮らしはもう限界」「生活にゆとりがほしい」。この３０年間、賃金が全くあがらなかったところに物価高騰が襲いかかり、暮らしの苦しさは日を追って深刻になっています。一方で、大企業は３０年間で純利益が１６倍にも増え、一握りの超富裕層は資産を空前の規模にまで増やしています。大企業の利益のために、非正規雇用の拡大など人件費コストカットをひたすら応援した政治の結果です。

そのうえ、自民党は、もうかっている大企業には法人税減税、消費税は増税、社会保障は切り捨てという血も涙もない政治を続けています。

財界からの企業献金にまみれ、財界の指図にしたがって、国民の暮らしをないがしろにしてきた自民党政治をこのまま続けてよいのでしょうか。力をあわせて、こんな腐敗し堕落した政治は終わりにしようではありませんか。

いま、暮らしの苦しさや不安を、高齢者のせいにして世代間の対立をあおったり、外国人のせいにする排外主義が、政党・政治家によってふりまかれています。苦しみをもたらす根源を覆い隠し、政治を変えるためにみんなが連帯することを妨げることが狙いです。

本当にださなければならないのは、“ごく一部の大企業と大資産家には巨万の富、９９％の人々には生活苦と将来不安”をもたらす政治であり、９９％の人々に、弱肉強食の競争と自己責任と分断をおしつけている、ゆがんだ政治です。“働く人が生み出す富をもっと働く人のものに、大企業や富裕層にためこまれた富を国民のもとへ”すなわち、連帯の力で、本当に公正で豊かな社会への改革を進めようではありませんか。

日本の平和は、岐路にたってる

平和をめぐっても、日本は大きな岐路にあります。

戦後８０年がたっても、日本列島のいたるところに米軍が駐留し、在日米軍基地は、海外での戦争の出撃拠点とされています。戦闘機やオスプレイなどの危険な訓練もやりたい放題、墜落事故が起きても日本の警察は捜査ができないなど、異常な事態が続いています。これで「独立国」といえるのでしょうか。

日本の自衛隊は、憲法９条のもとで戦後、ただの一人の外国人も殺さず、ただの一人の戦死者も出していません。ところが、自民党政治のもとで、そのあり方が根底から変えられようとしています。外国を攻撃するミサイルが日本中に配備され、戦死者が出ることを想定した日米共同訓練も行われるなど、戦争国家づくりが急速に進んでいます。凄惨（せいさん）な地上戦によって甚大な犠牲者を出し、戦後も米軍の重圧のもとで苦しんできた沖縄県民に、新たな基地をおしつけ、戦争の最前線基地にしようという動きは、決して許すわけにいきません。

「アメリカいいなり」の政治は、「戦争だけはだめ」という圧倒的な国民の願いをもふみにじり、他国を攻撃するための戦争の準備をすすめるところまできています。この危険な流れをどうしても止めなければなりません。

戦後８０年。もういいかげんに、異常な「アメリカいいなり」の政治は終わりにしましょう。本当の独立国として、憲法９条を力に、また唯一の戦争被爆国として、自主自立の平和外交によって世界とアジアの平和に貢献する、新しい日本をつくろうではありませんか。

大きな目で世界をみると

世界を見ると、戦争や飢餓、ひどい人権侵害、排外主義の台頭など、暗いニュースに覆われているように見えます。世界は、暗い時代へと向かってしまうのかと不安に思えるかもしれません。

けれど、もっと大きな目で世界を見てほしいのです。大国の横暴に対して、植民地から独立したたくさんの国々が、国連憲章にもとづく平和の国際秩序をつくれと声を上げ、無法な戦争に立ち向かっています。人種差別とのたたかい、ジェンダー平等を求める運動は、国境も超えた大きな連帯となって、平和と人権尊重の方向へと世界を動かしています。

「ノーモア・ヒバクシャ」という被爆者の長年にわたる命懸けの訴えは、世界の国々と市民社会を動かし、核兵器禁止条約を誕生させました。条約に批准・賛成する国々は国連加盟国の半数を超えて広がり、「核兵器と人類は共存できない」という国際世論となって、核兵器にしがみつく国ぐにを包囲しています。

アメリカと中国など大国が覇権を争うもとで、ＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）は、どちらの大国の側にも立たず、対話と包摂によって平和を構築するねばり強い努力を続けています。欧州や米国でも、大軍拡と人々の生活への攻撃に抗して、困難な中でも左翼・進歩勢力ががんばっています。

こうした平和・民主主義・人権を求める諸国民・諸政府・市民社会のたたかいこそ、人類の歴史を前に進める世界の本流です。

世界で起きている不合理に心を痛めながら、自分一人に何ができるのかと諦めてしまったり、目を背けてしまわずに、世界の人々と連帯して不合理に一つひとつ立ち向かっていくという生き方がいま大切ではないでしょうか。核兵器のない世界、戦争の心配のない世界、すべての人々の人権と尊厳が尊重される世界をつくるため、ともに手を携えようではありませんか。

あなたの人生をどう生きるのか

一人ひとりの人生は、たった一度きりしかない、大切な、大切なものです。日本も世界も歴史の岐路にあるとき、そして資本主義というシステムをこのまま続けていいのかが問われているとき、あなたの大切な人生をどう生きるのか。

社会の不合理を「仕方ない」と諦めるのでなく、見過ごすのでもなく、仲間と連帯して変えようとする生き方。世界は混沌（こんとん）としていて「分からない」としてしまうのでなく、人類社会の発展の法則を学び、科学と理性を力にして歩む生き方。人々の苦しみ、困難を自分の問題としてとらえ、その解決を求めてともに力をつくす生き方。こうした生き方のなかにこそ、人間の本当の幸福があると信じます。